

まちのスケッチブック

夢をかたちに…あたらしいまちづくり 市政報告 VOL.31

3月定例
議会号

ちよまつ ひろやす
泉佐野市議会議員 **千代松 大耕** (31歳)



3月定例議会

4月25日、月曜日に兵庫県尼崎市のJR福知山線で快速電車が脱線・転覆し、100人を超える尊い命が犠牲になり、多くの方が負傷されました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、負傷された方々の一日も早い回復をお祈り申し上げます。事故を起こした列車は「同志社前」行きであったため、通学途上にあつた多くの私の後輩たちが犠牲となり、そのうち3名の後輩が亡くなりました。希望に満ちて大学に入学した後輩が悲惨な事故に遭遇し、まして前途ある命まで奪われてしまったことは、本当に断腸の思いであり、言葉もありません。衷心より

哀悼の意を捧げます。
地上を走っている列車事故で空を飛ぶ飛行機の事故を想像させられるような死傷者を出さず、何が起るかわからない時代になってしまった感があります。事故現場では「駐車場にあつた車と列車がプレスされ、そこが列車が車か判断つかない状況」だったそうであり、一刻も早く事故の原因が完全に究明され、二度とこのような悲惨な事故が起こらないようにしっかりと対応をさせていただきたいと願うばかりであります。

3月定例議会では新田谷市長から平成17年度の「施政に関する基本方針」が出され、施政方針に対する各会派から会派代表質問が行われました。私も自由民主党泉佐野市議員団を代表して質問いたしました。主な質問内容を掲載いたします。

介護保険の見直しについて

千代松・・・施行後5年を経過した介護保険制度は、社会連帯で高齢者の自立支援をめざし、自己決定の理念や人間としての尊厳を尊重するといった制度創設の趣旨も広く認知され、介護に関する国民の理解と周知が大きく進んだ。また制度が導入されて、それまで

の「恩恵」から「権利」への被保険者の意識の転換と、それ以上に社会的連帯意識の高まりをもたらしたことに大きな成果があるのではないかとも言われている。その介護保険制度を持続可能な制度として構築していくため平成18年度から大幅に見直されようとしているが、具体的にどのような制度の見直しがあるのか？

答 井・・・制度改革に当たっては、介護保険制度の「持続可能性」を高めることや、高齢者の心身機能、活動、参加といった生活機能が低下しないよう予防するといった視点で議論されている。具体的には、介護予防重視型システムへの転換を図ること、地域密

着型サービスの創設を図ること、介護サービスの質的向上を図ること、在宅と施設の利用者負担の公平性を図ること、低所得者の高齢者に現在よりもさらに配慮した保険料の設定や対象の拡大を図ることである。泉佐野市においても制度改正の趣旨をふまえ、第3期介護保険事業計画の策定を進めていく。

開かれた学校について

千代松・・・開かれた学校を実現するということには、学校・家庭・地域社会が積極的な情報の交流を図り、学校がみずから地域に溶け込んでいくという能動的な「開かれた学校づくり」と一方では、地域住民の方々に学校施設を開放することによって地域住民の方々を受け入れ、地域住民の方々に親しみを持っていただく受動的な「開かれた学校づくり」の両面があると考えている。

「開かれた学校づくり」には地域住民による多元的な施設の有効利用と、児童・生徒が地域社会とのかかわりを持ちながら、その中で学んでいくといった両面の環境の充実が必要だと考える。泉佐野市の「開かれた学校づくり」の基本的な考え方は？

答 井・・・学校・家庭・地域社会の協力・連携による総合的な教育力の向上を目指して、平成14年に各中学校区において「地域教育協議会」が設置された。またいくつかの学校では、保護者や地域社会の意見を学校運営に反映するための組織として「学校協議会」を設置している。また「学校教育自己診断」を実施し、学校教育活動全般にわたっての評価を通して学校教育の改善に活かせるように取り組んでいる。今後も各種団体と連携し、地域社会において展開されている事業の活性化を

図り、学校・地域・家庭のより深い関係を築いていく。

広域処理のUSV

千代松・・・合併が破綻した後の広域行政のあり方についてだが、施政に関する基本方針の中で、廃棄物の処理については「広域処理も視野に入れた」手段の検討とある。どのようなことなのか？また現在田尻町と一部事務組合を構成し、廃棄物の広域処理に取り組んでいるが、現状における広域処理の概要と経過、そして新焼却施設建設計画を含む今後の考え方については？

答 弁・・・環境省では、従来の処理施設の建設、整備への補助制度を廃止し、循環型社会形成推進交付金制度を創設した。交付の対象となる地域は人口5万人以上、面積400km以上の市町村ならびに一部事務組合であり、現在の田尻町と一部の事務組合では基準を満たしてはいるが、

今後はさらなる「広域処理」を求められるのではないかと考えている。現在の泉佐野市田尻町清掃施設組合は、昭和40年に塵芥の焼却場、し尿処理施設の設置及び管理事務を共同で行うために組織された。現在は両施設ともかなりの老朽化が進んでいる中で、適正な処理を行うためには、他の一部事務組合との協力体制の整理が必要であると考えている。

まちの美化施策のUSV

千代松・・・泉佐野市は平成13年10月に、ごみの分別を5品目から12品目に拡大し、ごみの減量化を図ってきた。またごみの分別の他にも、ごみの減量化、費用負担の公平性という観点から粗大ごみの有料化も実施してきた。そして今回、平成17年度においては普通ごみの有料化を実施するための環境整備を行っていくと施政に関する基本方針の中にある。ごみの有料化が実施されたときの一番の懸念は、

不法投棄等の増大だと言われている。普通ごみの有料化とともに、まちの美化施策を強化もしていかなければならないのではないかと考えるが？

答 弁・・・泉佐野市としても、まちの美化について市民本意の環境美化運動を推進するために、今年度中に市民・事業者

・行政の役割を明確に示し、「ゴミのポイ捨てを防止する条例」を作成して、啓発に力を注ぎ市民と事業者の意識向上を高め、市民と協力してまちを美しくするための施策を図っていく。平成18年度に実施予定の一般家庭「ゴミの有料化についても、市民のモラルを高めるような啓発を進めていく。

この他にも3月議会では、「地域における啓発活動について」「読書活動の推進について」「青少年健全育成活動について」「りんくうタウンについて」「電子投票について」などを質問しています。
「泉佐野市議会ホームページ会議録 <http://www.city.izumisano.osa.ke.jp/section/gikai/>」をご覧ください。



4月3日(日) 大井関桜まつりにて

教育基本法の早期改正を求める意見書

教育基本法は、昭和22年の制定以来、一度の改正もなく戦後半世紀以上経過した。しかしながら、この間に日本社会は大きく変化し、教育は多くの課題を抱えるように至った。青少年の凶悪犯罪に示される規範意識や道徳心の希薄化、学級崩壊やいじめ、不登校の問題、家庭や地域社会での教育力の低下、学力の低下など、こんにち、教育改革は喫緊の国民的課題となった。こういう中、平成15年3月、中央教育審議会は文部科学大臣に対して「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方

について」を答申し、教育基本法の改正を提唱している。教育の再建へ向け、今こそ青少年の健全育成を図り、国際社会でも認められる日本国民のあり方はいかにあるべきかを真剣に考え、新たな時代の教育の方向性を明確に指し示す必要がある。よって政府は、一日も早く国会に教育基本法改正案を提出し、伝統文化の尊重と、国と郷土を愛し、家庭の意義と家庭教育の重視、道徳教育の充実、教育行政の責任の明確化などの観点に立って徹底的議論を行い、早期に教育基本法を改正するよう強く要望する。

意見書

3月議会におきまして、自由民主党泉佐野市議員団が提出会派となりました「教育基本法の早期改正を求める意見書」が賛成多数で採択されました。内容を紹介させていただきます。

*この意見書は内閣総理大臣、文部科学大臣、総務大臣、衆参両院議長に送付されました

連絡先 泉佐野市松原2-5-31
TEL 58-1708
FAX 69-0311

ホームページ <http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>
メール chiyoma51@hotmail.com
発行部数累計 387,500部 2005.5第31号

*「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。